

## Day 2 (2024. 2.15)

◆朝食後、8:30 にロビーに集合し、紙屋町まで徒歩で行き、路面電車にて JR 広島駅へ向かった。駅改札前で、本日お世話になる外国人ガイドさん3名と初対面。ベネズエラ出身のジョンさん、フィリピンからのポールさん、そしてナミビアのパンドゥさんである。各ガイドさんに生徒が3名、3名、2名のグループに分かれ、全行程を共にする。コミュニケーション言語は英語だ。



◆まずは一緒に電車で呉に向かった。呉駅からブリッジを歩き「大和ミュージアム」へ。到着後すぐに館内の視聴室へと案内され、館長よりおよそ30分ほどの動画を拝聴し解説をいただいた。その後質疑応答を経て、各自自由に館内を歩き展示物などを観覧した。質疑応答時、ジョンさんのあまりに流暢な日本語に驚いた。彼は終始行動を共にした生徒たちに、全ては why で自分の頭で考える、と critical thinking の大切さを力説し、生徒たちにこれでもかというくらい様々な why を投げかけていた。根気強く生徒たちに向き合ってくれてありがとうと言いたい。そして生徒の皆もよく頑張って答えていた。戦時中、人間魚雷として潜水艦で命を落とした先人たちの死を決して無駄にしてはならないと心に誓った。



◆昼食後は電車でまた広島駅に戻り、路面電車で袋町へ。徒歩で袋町小学校、そして本川小学校へと向かった。両校とも平和資料館が併設されてある小学校である。ここでも言葉を失った。学校の壁を使い、必死に家族や知人の安否を確認しようとチョークで書き、連絡するための唯一の手段だった壁。自分の愛する家族に、もしこのような悲劇が襲ったらと思うと、胸が張り裂けそうだった。



◆そしてここから徒歩で、レストハウス、Sadako タワーを通り、平和記念公園内にある追悼平和祈念館へ。そこで証言者である、小倉（オグラ）佳子（ケイコ）さん（90代）の講話を聴いた。小倉さんは全ての証言を、詳細なパワーポイントを使って、流暢な英語でお話された。アメリカ合衆国のバイデン大統領から送られた手帳をお持ちで、ページに私たち一人一人の署名がほしいと、寛大にも手帳に私たちの名前を記載するチャンスを下された。かつて敵国として戦わされ、原爆という惨劇を強いられ、敵国として憎悪を植え付けられた相手国の言語で、平和主義的に、流暢な英語で、年齢90を超える人物から、これほどまでに感動的な証言を聞いたことはかつて一度もなかった。敬意の念しか湧きあがらない。その後、平和公園にて外国人ガイドさんと談笑ののち別れを惜しみつつ、私たち一向は「むさし土橋店」へと夕飯を食べに向かった。

